

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	アクションマックス	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.054	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **5 1/4** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

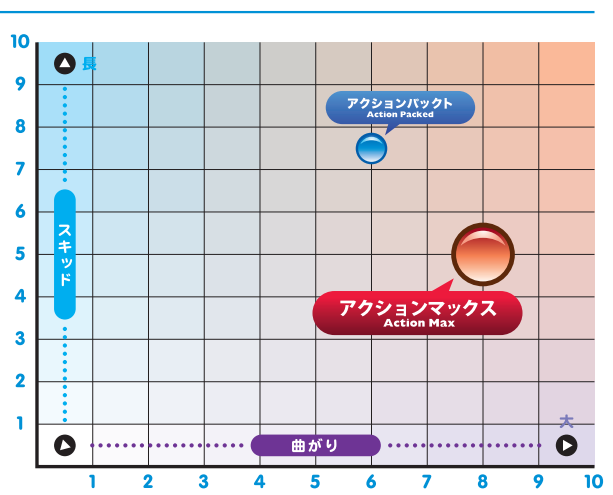
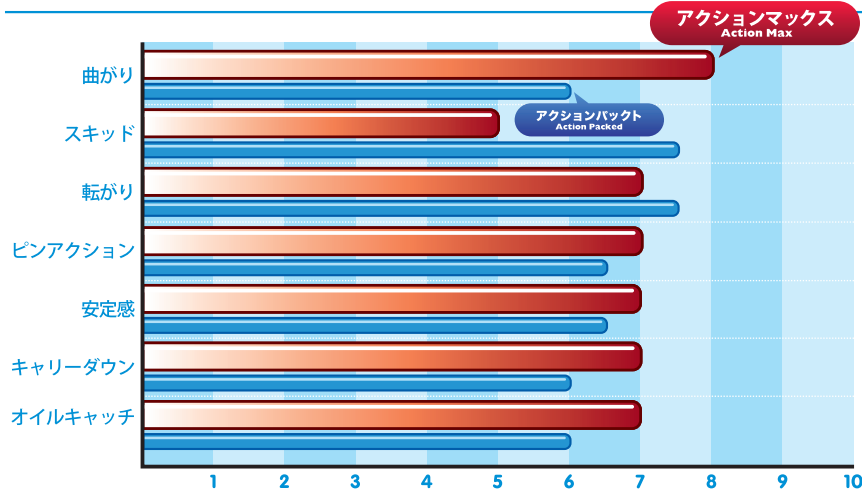
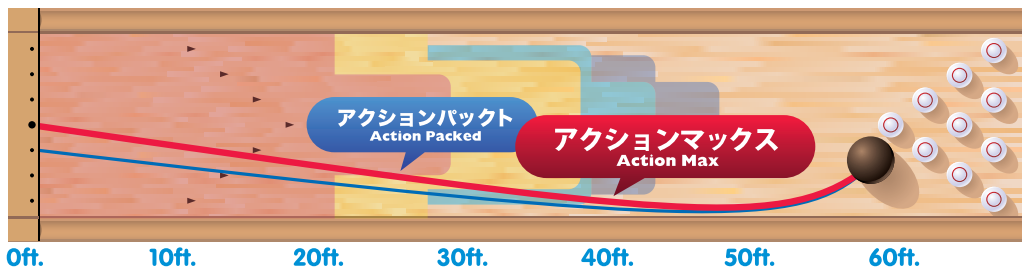
比較対照ボール：アクションパケット

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **5** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

初代アクションで山本勲プロが、2005 千葉オープンで初優勝をし、続くアクションパケットでも益田プロが 2006 シニアチャンピオンで優勝を飾りました。アクションシリーズはまさに優勝を成し遂げられるボールとして伝説を作り上げてきました。今回その伝説を受け継ぐべく、満を持してアクションマックスをリリースいたします。投球した第一印象は光沢を消してある表面加工からは想像がつかないほど、**バックエンドでメリハリのあるリアクションを得られる性能**であるということです。もともとアクションはリコシェのコア形状を使用し、バックエンドを重視したスペックではありましたが、カバーストックを強めにするとエネルギーは手前から出始め、バックエンドでのシャープ感は減少傾向になります。このアクションマックスの優れているところは、**しっかりと手前からキャッチしながらもバックエンドで十分な切れを感じることができるカバーストックとコアとの組み合わせが絶妙なボールです**。それだけ今回採用されている M80[△] Friction Plus カバーストックはアクションシリーズ中、最もオイルに強く、バックエンドリアクションもアクションの名を継承するに相応しい仕上がりです。この性能であれば、**ミディアムコンディション以上でしっかりと曲がり得られると同時に、キャリーダウン気味のコンディションやスピードがある方にも曲がりのイメージが取れるボール**とも言えます。王道をいくコロムビア社 M-80 カバーストック。オイリー向けのアクションマックス是非お試しください。

特記事項

ついに出来ました！コロムビア社 M-80 カバーストックのオイリー用ボール。アクション・クリスパーズセレクト・アクションパケットと M-80 のボールだけであらゆるコンディションに対応が可能になりました。